

第5回超領域社会工学研究会報告

本年度最初の研究会を4月29日（土）13:30から17:00まで世田谷区奥沢地区会館第三会議室において開催致しました。大型連休の初日であり、朝鮮半島情勢が緊迫化しているにもかかわらず6名の参加をいただきました。

開始前には、近くの浄真寺で瞑想する方もある一方、会館の場所がわからず“迷走”する方もいて波乱の幕開けとなりました。

今回は、下記4件の研究発表、研究報告がありました。

草野純子「電界、磁界と暮らしについての考察—名古屋&香港での計測から 第一報」

香港の天后廟、熱田神宮、名古屋城等、いわゆるパワースポットと呼ばれる地点で実際に電界、磁界量を計測したデータの発表でした。香港到着後、謎のエネルギーが作用して、計測機器の一部が原因不明で壊れたものの、果敢に計測を行いました。結果、天后廟や香港市街では、電界よりも磁界の値が高く、地磁気の強い場所＝パワースポットであることが示されました。普段の生活の中でも、電界、磁界の影響を我々は受けており、適切な対処をすることで身体の活性化につながるのではとの示唆がありました。

長井壽満「七のイメージ ヨハネの『黙示録』より」

宗教において数字は神秘性を有しています。ユダヤ教、キリスト教における7の持つ意味について『黙示録』を例にした発表でした。実はラッキーナンバーではなく破滅のイメージであった7。ひょっとしてロト7は、破滅への宝くじかもしれません。

安田裕子「キューバの保健・医療・福祉制度」

キューバに実際に行った体験をもとにキューバにおける保険、医療、福祉制度についての発表でした。キューバの医療は、ポリクリニコ（地方診療所）が核を担っており、医療費が無料であることなど、高齢化と医療費の自己負担が年々増加している日本にとっての今後を考える上で大変有益なものとなりました。

増子保志「毛沢東という“もの”—毛沢東グッズとその時代背景—」

毛沢東は、バッジをはじめトランプ、お守り、マグカップ等それぞれの時代背景にあったグッズが作成されています。毛沢東グッズは、時代背景や人々の意識に裏打ちされて、意味の付加された“もの”として我々の前に表れていることを

時代別に分類した発表でした。最近では毛沢東だけではなく、習近平グッズも登場し、中国政治の動向と絡めて、その行方が興味深いところです。

解散後、浄真寺を見学し、読経に心洗われるもの、造園学の見地から結界に関して蘊蓄を述べるもの、仏を恐れず、果敢にポケモンゴーをするもの等、各人多様に境内散策タイムを過ごしました。

当研究会のメインイベントである懇親会は、中華料理の老舗自由ヶ丘「泰興楼」で行いました。名物の大型餃子や黒鯛の揚げ物を食しながら、研究会参加者共同での論文執筆についての打ち合わせを行い、それぞれがテーマを出し合い、共同執筆につなげていくことになりました。

次回は、7月29日に開催する予定です。

(研究部会長 増子保志)



熱をおびる研究発表

面妖な研究会の面々

